

長崎大学核兵器廃絶研究センター開設記念シンポジウム
「核兵器のない世界を目指してー長崎から世界へー」へのメッセージ

国際連合軍縮問題高等代表
アンジェラ・ケイン

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）開設記念シンポジウム「核兵器のない世界を目指して：長崎から世界へ」の開催にあたり、潘基文（パン・ギムン）国連事務総長に代わってお祝いの言葉を述べさせていただきます。

あわせて、センター開設にご尽力された長崎市、長崎県、日本政府の関係者の皆さまにも感謝を申し上げます。

核兵器ならびにその他の大量破壊兵器の全廃は、国連にとって、これまでも、そして今後も引き続き、軍縮問題における最優先課題であります。この問題は、とりわけ潘基文国連事務総長が、自らの最優先課題と掲げているものです。世界から核兵器を全廃するという、私たちの共通目標を実現するためには、各国政府、国際機関、そしてRECNAのようなシンクタンクを含む市民社会の協力が欠かせません。

この大きな目標の達成に向け、国際社会の連帯と決意を強化する具体的方法を検討してゆく上で、本日のシンポジウムが貴重な機会となります。皆さんは、貴センターのような組織が、核兵器なき世界の実現に全力を傾注するべく立ち上がったという、力強いメッセージを世界の指導者に向けて発信することができるのです。

核軍縮は非現実的な夢物語に過ぎない、そういった言葉を私たちはしばしば耳にします。私たちは、そうした言葉にしばしば惑わされ、核兵器廃絶という目標を達成する責任を私たちの子や孫の世代に押し付けてしまいそうになります。

しかし核軍縮は私たち自身が取り組むべきもっとも重要な責務です。確かに、核軍縮に向かう道のは平たんとはいえないでしょう。核兵器には特有の危険性がありますし、また、核軍縮を厳密に検証する制度を確立することは難しいからです。しかしだからといって、それらは行動を起こさない理由とはならないのです。

したがって、核兵器廃絶を掲げたセンターの開設という志を実現させた皆さま方の努力に深く感謝申し上げます。貴センターが発展・飛躍し、次世代の学生、学者、研究者らが持てるエネルギーとビジョンをこの歴史的使命に注ぐような刺激となることを期待します。未来はまさにあなた方の手の中にあります。貴シンポジウムの成功を心よりお祈りし、お祝いの言葉とさせていただきます。

（翻訳：核兵器廃絶研究センター）